

「主体的・対話的で深い学び」を充実させる授業づくりのポイント

視点		No.	内 容	チェック	
子供たちが 生き生きと学ぶ 授業づくりの前提		1	信頼関係に基づく学級づくり（肯定的・共感的な人間関係づくり）を進めている。	✓	
		2	学級に学習規律（時間、挨拶、話し方、聴き方、学習用具等）を浸透させている。	✓	
		3	本単元・題材や本時を通して、児童生徒が「何ができるようになるか」について確認している。	✓	
		4	教材・教具を工夫している。 （一人一台端末の活用も踏まえ、教師間・異校種間等で連携を図り、指導の系統及び安全面を踏まえた工夫をしている。）	✓	
		5	本単元・題材や本時で活用できる既習事項と、その定着状況を把握している。 （全国・県学調、レディネステスト、アンケート、家庭学習等）	✓	
指導過程や授業形態等の工夫・改善	導入の工夫 端的な動機付けによる学習課題の明確化、学習意欲の向上	6	「日常の生活場面からの問題提示」「驚きや疑問、感動を与える導入」「既習事項との関連（習得した知識・技能の活用）に気付く導入」等により学習意欲を喚起している。	✓	
		7	本時の目標（めあて・ねらい）を明確にし、児童生徒が「追究したい、解決したい」という必要感がもてる学習課題を設定している。（板書等で分かりやすく提示している。）	✓	
		8	「どのように学ぶか」という学習の見通しをもたせている。	✓	
	展開の工夫 学習課題の追究、解決に向けた主体的・対話的な学習活動	9	体験的・問題解決的な学習活動を設定している。	✓	
		10	自力解決の時間を適切に設定し、児童生徒に自分の考えをもたせている。	✓	
		11	言語活動の充実（話し合い、発表、プレゼンテーション、討論、論述、レポート作成等）を図っている。	✓	
		12	目的に応じたペア学習、グループ学習等、児童生徒の主体的・対話的な学びのための学習形態を設定している。（その目的や行い方を丁寧に指導している。）	✓	
		13	児童生徒の思考を促す発問や理解を深める発問を工夫している。	✓	
		14	端的で分かりやすい指示を心掛け、板書とリンクさせてノート指導を行っている。（本時の学習の流れ、思考の流れが確認できる板書を工夫している。）	✓	
	終末の工夫 本時の学びの振り返りと身に付けさせるべき力の定着	15	学習活動を振り返る場を設定し、児童生徒に変容を実感させ、その伸びを見取っている。また、今後につながる振り返りを全体で共有している。	✓	
		16	児童生徒が本単元・題材や本時を通して働かせてきた「見方・考え方」をもとに、新たな課題を見付けたり、深い学びにつなげたりしている。	✓	
		17	家庭で復習できるようなポイントを示したり、今後の学習活動の見通しをもたせたりしている。	✓	
	評価に関する工夫・改善		18	単元・題材の評価規準を設定し、各観点のバランスのとれた評価計画を作成し、教師の指導改善及び児童生徒の学習改善につなげている。	✓
			19	本時の評価規準に準拠した指導と評価を繰り返している。	✓
20			評価結果の蓄積（補助簿の活用）から児童生徒の学習状況を把握し、次時以降の授業改善に生かすとともに、個別の指導・支援を明確にしている。	✓	